

阿蘇の広大な草原は、野焼き、放牧・採草という農業上の利用により千年もの長い間維持されてきたもので、この営みを通じて地域固有の文化、生物多様性、景観が形成され、今も多様で豊かな資源が守られている。

千年にわたって
草原を受け継いできた
阿蘇の農業。



刈草は牛馬の飼料、敷料のほか、堆肥として利用される。昔ながらの刈草の保存方法である「草小積み」は阿蘇の代表的な冬の風景。



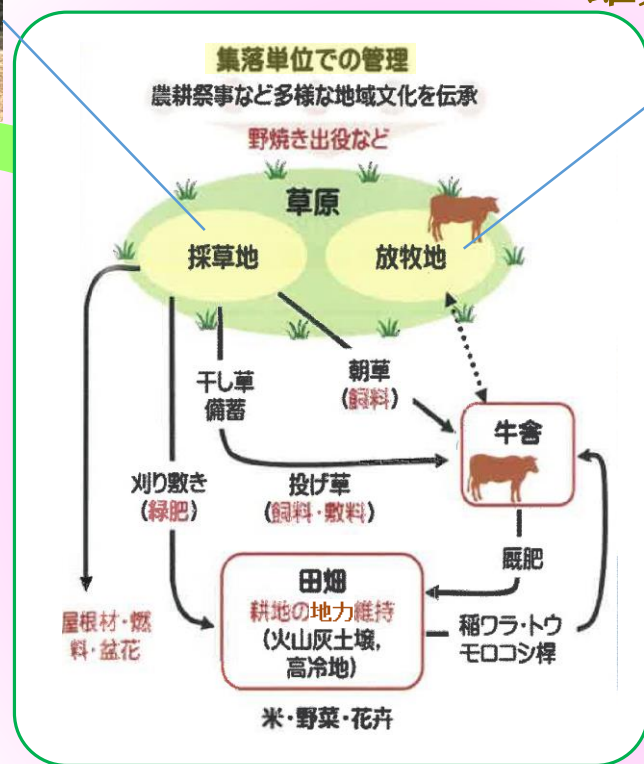
多様な農産物

文化の伝承



阿蘇の農業システム

雄大な草原の風景



草原の維持管理

野焼きは春を迎える2月後半から4月にかけて行われ、低木を除去し、初夏にはススキなどを再び繁茂させる省力的で効果的な草原管理技術。



独自の生物多様性



豊かな水



世界農業遺産認定後の効果・成果

※R3.7現在

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">農林畜産業 の振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 野草堆肥の有用性研究の成果として、野草堆肥への需要が増加 阿蘇草原再生オペレーター組合採草量 477 t (R2) ✓ 特産の「阿蘇たかな」の種を使ったマスタードが「2016年度全国優良ふるさと食品中央コンクール」で農林水産大臣賞（最高賞）を受賞。さらなる生産、消費拡大が見込まれる。 ✓ ニューファーマーズ経営セミナー、農業師匠制度により新規就農者数が増加 ホームページ及びパンフレットにより管内外で周知・PRを実施 阿蘇地域における新規就農者 26名 (R2) 	 <p style="text-align: center;">阿蘇タカナード</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">草原の保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 繁殖あか牛導入支援事業、あか牛オーナー制度の推進 熊本県や阿蘇草原再生協議会等と連携し、繁殖あか牛の導入を支援 熊本県 延1,190頭 (H28) →延1,442頭 (R2) 阿蘇草原再生協議会 延332頭 (H28) → 延561頭 (R2) ✓ 周年放牧、広域放牧（阿蘇地域内外からの放牧）の実施 周年放牧の実施取組者・頭数がそれぞれ1,212頭・529戸 (R1) 広域放牧の実施取組者・頭数がそれぞれ810頭・77戸 (R1) ✓ 野焼きボランティアの派遣、活動費の支援により管理放棄された牧野の野焼きが再開された。 野焼き再開箇所数 1 牧野 (R2) 	 <p style="text-align: center;">あか牛の焼肉</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">交流の拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 阿蘇産農産物 P R 映像の活用や九州管内での販売コーナーの設置、令和元年度には香港「割烹 櫓杏」における「香港 阿蘇地域世界農業遺産フェア」の初開催により国内外において阿蘇世界農業遺産の認知度向上を図った。 ✓ フットパスコースの設定 (H24：－ →R2：10コース) ✓ 会場と阿蘇小学校、県立高森高校、東海大学農学部等をオンラインで結び、「令和2年度こども地域学習発表会」を実施した。 ✓ 九州における世界農業遺産認定地域である3地域で「九州農業遺産フェア」を福岡市で開催し、熊本県・大分県・宮崎県の魅力発信を行った。(R2) 	 <p style="text-align: center;">こども地域学習発表会 の様子</p>